

平成 27 年度 湖南省立図書館第 4 回図書館協議会 会議記録

- 開催日時 平成 28 年 3 月 6 日(日)午後 13 時 30 分~15 時 40 分
- 開催場所 湖南省立甲西図書館 2 階 集会室
- 出席者 図書館協議会委員 7 人 欠席者 3 人
教育部長、事務局図書館長他 2 人
- 傍聴人 5 人
- 議事
 - 1.平成 27 年度図書館事業等について
 - 2.図書館評価について
 - 3.平成 28 年度図書館の休館日について
 - 4.図書館関連新聞記事について
 - 5.意見交換、その他

[開会]

館長	<p>【事務局による資料確認】</p> <p>定刻を過ぎましたので、第 4 回の湖南省立図書館協議会を開催させていただきます。本日は、3 名の委員が欠席です。まず、部長があいさつを述べます。</p>
部長	<p>本日はお忙しいところ、協議会にお集まりいただきありがとうございます。また、傍聴の皆さんありがとうございます。</p> <p>今年度は、武雄図書館のことがありまして、公立図書館が取り上げられる機会が多かったように感じています。細かなことは、新聞記事でもこの会議でもお話をさせていただきましたので省略しますが、概ね公立図書館に経済的効率や経済的な結果を求めるべきではないというのが結論かと思えます。一方、表裏一体の関係にあると思えますが、公立図書館の存在意義は何かということが問われている状況ではないかと思っています。県も含めて市町の財政状況が非常に厳しくなり、その上地域の人口は減っていくことなど、今後ますます公立図書館の存在意義が問われてくるのかなと思われまます。</p> <p>本日は第 4 回目となり、平成 27 年度の事業報告ならびに今後平成 28 年度のご意見も聴かせていただけたらと思っていますので、よろしく願いいたします。</p>
館長	<p>では、これから先は規則により会長が議長となり、議事進行することと定めていますので、吉村会長、よろしく願いします。</p>

■議事

会長	<p>皆様、年度末のお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>2 年間の任期の内、1 年が経過しましたが残る 1 年で引き続き図書館のあり方に関して忌憚のない意見を伺いたいですし、特に、今日の議題に挙がっている図書館評価として職員による内部評価に対して、協議会による外部評価を行うことについて、ワーキンググループでつくった案に改善点等ご意見をいただき、本日提出したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
----	--

	では、1 番目の議事「平成 2 7 年度図書館事業等について」の説明をお願いします。 資料No.④
事務局	[議事 1 平成 2 7 年度図書館事業等について説明する。] 資料No.④平成 2 7 年度事業実績、資料⑥ブックスタートアンケート結果 参照
会長	委員から、講演会、展示とブックスタートについてご意見、ご感想などお願いします。
委員	ビブリオバトルを 3 回実施しましたし、平成 2 8 年度も続けて行くことになりました。新しい方も入っていただき良い傾向であると思っています。ただ、学生が来るような時期と決めていても行事と重なったりしたので、作戦を練る必要があることから、4 月に入り体制が整ってから委員に声をかけようと思っています。何よりも定着してきたことを喜んでいます。
会長	実行委員会は何名ぐらいですか。
事務局	7 名です。
委員	当日のお手伝いだけという方もいて、フレキシブルにいただいています。
事務局	チラシの配布だけ協力という方を入れたら 1 0 名以上おられます。
委員	読み聞かせブックスタート、非常に地道な努力をなさっていると思います。先ほど部長が言われた公共図書館ならではのひとつの存在意義がこういうところにあるのではと、保健センターとよく連携をされて良い効果をあげておられると思います。ただ、気になったのは最後のアンケートで図書館を利用しておられますかというところで、あまり利用していないのが意外と多いと思いますが、図書館のことを数字ばかりで判断するのもどうかと思いますが、図書館として何か分析はなされていますか。
部長	私は、むしろ逆の見方をしています、全市民の利用者は 2 割といわれていますよね。お母さんの子の世代たちが経年してもずっとこの率を保ってもらえればすごいとだと思います。なぜ、半分しか利用しないではなく、この時期にスタートして 2 割に落とさないように維持していけたらとの見方をしています。
委員	子育ての大変な時期に図書館に来るのは大変だと思いますが、救いは読み聞かせを毎日しているのは、希望のあるブックスタートの効果であると思います。
委員	赤ちゃんの名前で利用カード作成の登録者ですが、新規の登録ですか。
事務局	新規登録数です。
委員	累計数では出してないですか、元の数に対して何人増えたかが分かると力が入れやすいと思います。この数を見ていると少ないと感じますが、累計があれば多いと感じると思います。こうした数字は少なく書くより、大きく書いたほうが良いと思います。 読み聞かせに来ている人たちは、半数ぐらいとか三分の一とか登録はしていますか。
事務局	読み聞かせに来られた方内でのというのは、把握はしていません。
委員	半数の人が利用している中で、より新しい人を導く道を開く力の入れどころをどこにするかであって、遊び盛りの中高生をターゲットにするよりも良いのではないかと。そういった意味で展開していくには細かな資料が必要ではないかと思っています。
事務局	年度末になったらいろいろな数字が確定しますので、来年度初めに細かな報告をしたいと思っています。

会長	来年度の時に、数字だけではなくコメントも入れるようにしてください。
委員	朗読ボランティア養成講座をされ、20名の受講で1名の参加と聞きましたが、といいながらも受講した私も参加できてなく恐縮ですが、平成28年度もこの講座はされますか。
事務局	平成28年度は図書館でする予定はないですが、詳しい確認はできていませんが湖南省社会福祉協議会が同じ先生で検討されているように訊いています。
委員	前回に言うべきだったかもしれませんが、全6回ありましたが、名前を呼ばれても欠席という人が多いとの印象を受けました。参加者の動機は分かりませんが、4回以上など受講回数に制限を設けるなどの工夫が必要だと感じました。
事務局	受け付ける側としては、原則全部出席してもらおうことで募集していますし、申し込む側も毎回出席するつもりだったと思いますが、毎週のことですり用事も入ることもあったのかと思います。現在も引き続き見学者もあるとのことですし、今後も間口を広くして関心を持って参加してもらえればと思っています。スケジュールに合わせて参加していただけることを願っています。
委員	受講しているものが毎回たくさんの方が休んでいると感じたので、講師の先生に毎回出欠表を渡しておられればそれは避けられたのではないかと思います。
会長	平成28年度は、社会福祉協議会で実施されるようであれば、そのような意見があったことを伝えておいてください。 他にご意見はありませんか。
委員	感想ですが、ブックスタートのアンケート結果を見て驚いていまして、孫が1歳6か月と3歳で、90%読み聞かせをしていることに驚いています。年子で育てますと読み聞かせはともできません。「お母さんといっしょ」などを一緒に見せています。あと図書館の利用が半数ですが、読み聞かせをしていない理由の大半は時間が無いことや、子どもの理由でできないと思われる。図書館を利用しない中には祖父母が本を買ってあげたりしている人もいますので、本があるのはもっと多いはずですよ。
委員	ビブリオバトルに1度だけ投票で参加させていただきましたが、結果は自分の投票した人がチャンプになられたのですが、発表者で一人だけ票が入らなかった方がおられ、表情が曇っていたようで終わると同時に会場を去られたのを見て、仕方のないことですが残酷だなと感じました。
委員	それは、開票の方法も悪かったと思います。チャンプ本を選ぶという目的であれば、他の開票開示をしなくてもいいのです。今話を聞いて、一番話題の本でしたとすることはできます。これまでの流れでそうなっているので、配慮するようにします。
会長	では、次の議題に移らせていただきます。本日のメインの2.図書館評価についてですが、事前に外部評価案として送っていただいています。もう一度これの復習ですが、文部科学省から公共図書館が独りよがりにならないようにまず自分たちで計画を出していく際に内部評価することが好ましいと、義務ではありませんが、その時に誰がやるかは別として外部評価することも望ましいと挙がっています。先日県立の国松館長に聞いたのですが、滋賀県下で実施しているところは、おそらく内部評価はしていても外部評価は湖南省が最初になると思われます。平成26年度の内部評価に対して、今回は初めての試みなので我々の外部評価の摺り合わせを

	<p>しますが、来年度に関して内部評価、外部評価共にホームページなり何らかの媒体で公開することになります。前回にも説明しましたが、職員による内部評価が完成されていなかったため、ワーキンググループ5名が1回集まって結論が出ました。事前に送ってもらった資料3頁は、数値目標「(1)図書館資料等の整備と整理および利用促進」に関してワーキンググループとして作った叩き台です。同じく「(2)利用に応じたサービスの充実」に関しましては、7頁に試案をまとめました。これらに関しましてワーキンググループ外の委員から意見等をヒアリングし、修正・追記が発生したら盛り込み正式な図書館協議会からの外部評価として報告したいと思っておりますので、協力をお願いします。</p> <p>まず、3頁の方ですが、まず全体評価は、主要な指標としては外部評価Ⅰとして、Ⅲがあるのは環境等の変動部分もあるのでトレンドとして変動する可能性もあるので全体評価はレベルⅡとしました。個別の意見としては、除籍がうまく実行できなかったのは人手不足があり、専門的な判断が必要となり、オーバーワークしていないか危惧されることです。また、ベテラン職員が図書館から離れること、また図書館と関係のない部所から職員が補充して来ることは意義のあるローテーションになってない危惧もあります。サービスの維持向上の立場から、単年度ではなく複数年の長期スパンで作成し、公共図書館として機能を果たせ、且つサービスが低下しないよう図書館として頑張っていたいただきたいと意見として述べたいと思います。また、ブックトークのような他の部門との協働の行事は非常にうまくいっていますし、続けていただきたいと思います。最後に貸出冊数を増やす工夫については、地道な活動ですが知恵を出しながら続けていただきたいというのが、ワーキンググループとしての意見です。これについての意見がございましたら、お願いします。</p>
委員	3頁の赤字の上から3行目の「はく」ではなく「なく」が正しいです。
会長	誤字です。
委員	下から2行目「協働」は、「共働」ではないですか。
会長	有機的にやるという意味で「協働」を使わせていただきました。
委員	スタッフを増やさないというのが要旨ですね。
会長	まずは、減らしてもらっては困ります。やはりいろいろな理由の中で補充するなら、単純に司書資格の有無よりも、まず本好きの方を優先にと思っています。
委員	基本的には、レベル的に資格を有している者が前提ではないですか。
会長	勿論そうですが、それがなし崩し的にということがありまして、実は昔は100%資格を有していました。
委員	であれば、有資格者を第一目標に訴えたほうがいいのではないですか。それプラス本好きではありませんか。他は問題ないと思います。
会長	図書館協議会として、図書館の本来あるべき姿ということですね。
委員	私は、除籍を含めて判断できる職員が必要で、人数だけいけば良いというものではありません。
会長	人数だけではなくて、日常業務で優先度の高いものばかりをやれば年度末にタイムオーバーとなり、民間企業でもよくある話です。

委員	市役所全体を考えた場合、図書館だけを有能な人材で占めなくてはいけないのか、他にも問題は沢山あると思います。
会長	そうではなくて、図書館の有能な人材を引き抜かないでほしいということなのです。
委員	図書館だけを絶対的にと言われても、図書館というのは市役所の一部ですから、その辺りを言いきって、できるかということですが、難しいと思います。
委員	そもそも我々は、図書館協議会の委員であり、協議会としての意見を述べるのであり、役所側から反発を受けるかもわかりませんが、要望はするべきだと思います。
委員	いろいろな立場からのことを考えての発言をしてしまいました、図書館側からの主張はしても良いかと思えます。
委員	少なくともこの場では協議会としての趣旨で発言されるべきだと思います。
会長	他にありませんか。
委員	平成26年度までボランティアなどしておりましたが、ベテランの司書さんが急におられなくなったのでどうされたのかと伺うと、人事異動だったことが分かり愕然としました。だから、こうしたことは大事であると痛感しています。
委員	今の問題は、開館当初の基本精神としては全員司書でしたが、それでこそ質の良い図書館ができるということ、それと他の職員は役所の中でローテーションがあり図書館はそれをしないことが前提でしたが、様々な事情があるかと思えますが、基本は専門機関として押さえておく必要があります。それから除籍のことでお尋ねしますが、かつては何か月毎とかで定期的にされていましたが、今はどれぐらいのサイクルで、どれぐらいの時間を費やされていますか。
事務局	除籍の決まったローテーションはありませんが、現状として平日は難しく、土曜日と日曜日に書庫へ入庫する作業と合わせて除籍をしています。代休が入ることや館の行事が入り除籍に回せる人員が確保できないとその週はストップしてしまいますので、定期的にはしていません。それと、本末転倒かもしれませんが、年3回程のリサイクルに合わせて一定の冊数を除籍しているのが現状です。除籍方法は、年度によって違いますが、以前は当番により毎日時間を決めていたときもありましたが、その年度の職員体制により変えてきており、昨年と今年度は土曜日曜にするようにしているのが現状です。
会長	新刊書や雑誌の新しい本が入ってくるのは、土曜日曜とは限らないのですね。
事務局	雑誌は毎日入ってきますが、新刊書は毎週土曜日の正午に表に出しています。それは毎週していますが、同じように除籍もできれば良いのですが。新刊を出すことは先には延ばせず、他を差し置いてでもしています。除籍は利用者の見えないところになりますので、定期的に維持することが難しいのが現状です。
会長	そうなると書庫の通路にあふれるようになりますね。
事務局	本来は、新刊で出した冊数だけ除籍しないと棚が溢れることにはなりますが、その部分ができていません。
委員	毎月の整理日とは別の作業ですか。
事務局	別の作業で、開架部分の整理をしています。本が違う別の場所に入っているのが多く、本来の場所に戻す作業をしています。それと石部甲西両館の全職員が集まり情報共有の会議もしています。

委員	ワーキンググループが夜に集まって評価作業をするのだから、これが役立つようにと、これが現状なんだと図書館側から言いにくいであろうから、私たちがここにしっかりと載せて、市に改善をしていただければ良いなどの思いで書かせていただきました。それと、前回も言いましたが、市議会で副市長がレファレンスの数が減っているとの答弁だったが、本当は増えているのであって、そうしたことをしっかりと理解してもらうためにも、湖南省が一番に作っているこの外部評価が活かされれば良いなと思いました。
会長	最初に言いましたが、今年は試みであり紙で作って答申をしますが、来年からはホームページ等、何らかの方法で公表されることとなります。
部長	補足説明をさせてもらいますと、ここに書かれてある事は、市議会でも質問が出でいて、本会議の中でも答えている内容ですし、今週にも教育長が特別職三役会のなかでも平成 28 年度における教育部の課題の一つとして人事配置のことがありますし、前回も言いましたが、後継者の採用についても要望いただいています。市人事配置的にはいろんなこともありますが、これらは私どもも十分承知している内容です。
会長	では、7 頁に移らせていただきます。7 頁の(2)は数値化というより利用に応じたサービスの充実の中の数値化できるものとできないものがあるということで、8 頁にあるように評価基準は、言葉による基準、若しくは数値化できるものの達成率により A・B・C で評価するもので、まず、内部評価では①から⑦までされて、全体としては A とされ、個別評価が出されています。それに対してワーキンググループとしては、全体評価は問題なく A で、勿論個別評価の⑥の市役所各部との連携が内部評価の B がありますが、それ以外は A であるので、評価 A で問題はないと思います。⑥というのも人員の配置ですし、とにかく職員体制が今より悪化しないようにすることが、気持ちよく職員が働いていただける環境にすることが住民サービスの充実に反映されるだろうということで、ワーキンググループでまとめさせていただきました。これに関してご意見如何ですか。
委員	特に意見はありませんが、現実として一体人員の何人が不足しているかは明確なのですか。例えば 10 人体制であったものが今現在は 8 人であるとかがありますか。ベストが何人で現状はこうであるから、であれば話し合いができますが、相手も答えにくいのではないですか。では、減る前は何人でしたか。
委員	やはり基準がないとね。
委員	この問題はこの場で明確にということではありませんので。ただ、50 人は必要ないと思いますが、20 人または 15 人が適正なのかというレベルを言っているものです。
会長	標準的な人数を出すのは難しいと思います。今のレベルを維持するには何人不足するとか、現状の人員で開館時間延長をいわれても対応できないという話です。
委員	最初、図書館をつくる時に人口規模によって望ましい冊数などの専門機関の基準はあると思います。図書館設立の準備室の時代から館長予定者を招へいし、3 年程をかけて適正で必要な人員、規模、蔵書数について十分練って準備をされたと思いますので、その時の数値が参考になると思います。ただ、20 年前と今では状況が変わっていると思いますが。
委員	数値は具体的には出ないものなのですか。

委員	具体的な人数は私らでは分かりませんが、管理者である教育委員会として、実際に働いている人の現状の声を聴いてみるのが、まずは第一だと思います。そういう具体的な作業はありませんか。
館長	当初の司書職員はどうなのかといわれると、人数も一人減っています。また正規職員であったものが、嘱託職員や臨時職員に変化したりして実質減っています。
会長	これまで、さまざまな人の動きもあり図書館の本業は何なのかで、他との連携による増員なども考えられますし、そういう意味で何人が適正かは非常に難しいものです。
委員	現在、図書館の職員は何人ですか。
館長	嘱託臨時職員を含めて 15 人です。なお、病気に伴う臨時職員対応があり、一時的ですが 1 人いて 16 人です。
委員	その内、司書資格は何人ですか。
事務局	甲西が 6 人、石部が 4 人です。甲西町時代に司書は多い時には 10 人いました。
委員	具体的な人数を聞いたのは初めてですが、私たちが利用していれば、臨時嘱託が入っているのは分かります。
会長	石部と甲西だけではなく、移動図書館車もありますし、その回数が何回であるかもあり、運営内容が変われば必要人数も変わるので、何人がベストなのかは言えないんです。
委員	何人が必要は言えますか。
会長	仕事量に変更しないことが前提であり、それでも無理してできるものではありません。
委員	今の体制で無理をしても、現状のままでは無理だということですか。そうすると不足しているということですか。
委員	当時は全員が司書だったというし、人数も減り、質としても落ちているということは、明確です。
委員	人数は減っていますし、新しい正規職員も増えていないのが事実です。
事務局	甲西は、当初は司書 10 人と館長でしたが、今は、館長と職員が 9 人でうち司書が 6 人です。
委員	館長が兼務の時もありました。
会長	過去 3 代ぐらい兼務の時代が続き、前任から専任の館長に戻りました。
委員	専任になったことは評価できます。
委員	それから質の問題ですが、新しい次の世代を早く育てておかないといけないし、その人数も考える必要があります。
会長	除籍の判断ができるようになるには、日常業務で年数をかけて育てるしかありません。
委員	図書館内で、最低育てる努力は必要です。
事務局	行政職員が異動してきてもカウンターへ入り教えていますが、1 年目では選書はしてないですが、本を覚えてもらう意味で本を棚に返す作業や、カウンターと一緒に教えるようにはしていますが、教えて育ったのに市役所へ戻ってしまうと思うと、どこまで教えるのかとの戸惑いもあります。
会長	自分の仕事を抱えながら、教えるというのはもったいない気がします。

委員	県立図書館長の話を知っていると、20年先のことを考えて人事を組んでおられるようです。
会長	先ほど月に1回正しい本の位置に戻す作業といわれていたことですが、皆さんは元の場所へ戻っていて当たり前であると思われていると思います。私は海老名市立図書館に行ってきたことで、本の整理はされているのかと尋ねたら、わからないので責任者に聞いてくれと、責任者に聞いたら特にしていないとのことでした。利用者が本を使って元に戻すときに、この辺りかなぐらいしか意識してないと思われ、本当に酷い状態でした。滋賀県下の図書館であればレベルが高いので整理日とはいわずに、それまでに正して整理がされていると思いますが、海老名や小牧では、まずその発想がありません。先週使った本をもう一度使用したくて、もう一度行ったら自分で探してくださいと言われ、それでその棚へ行ったらその場所には無い、よく見ると近くに間違っに入れられていたという状況は、もはや図書館ではありません。あるべきところに本がなく武雄図書館のように昔からの本の並びでないというのは、経験で覚えた並びでないので何処へ戻せばいいのかが分からない状態なのです。検索をかければ戻っているけれどもそこには本がないこととなります。うちではそういうことは起こらないですが、それは教えないとできないことでもあります。
委員	それらについて、初代館長は非常に厳しい方で、良い意味での職人的感覚といいますか、市民が借りた本を直に戻すことによって、どのような本が動き、どのような本を要望されているかを学ぶことができると言われていました。
会長	では、何人必要かとまでは踏み込めませんが、今年度はこれでよろしいですか。2番目の議題は以上としまして、3番目のカレンダーの説明をお願いします。
事務局	【議事3 「平成28年度図書館の休館日について」説明する。】 資料No.⑤参照 湖南市立図書館利用カレンダー
会長	甲西の蔵書点検は5月ですが、石部はいつですか。
事務局	1月の末となります。
会長	3日間でするのですか。
事務局	冊数の違いがあり可能です。蔵書点検では、すべての本のバーコードをなぞりますので甲西は、冊数が多く時間がかかります。
委員	現在、除籍をする時間がなくて本が増えている状態であれば、人を増やすか、休館日を増やすしかありません。
事務局	それは館内でも話しましたが、開館日数を前年度より余り減らしたくないので、祝日開館も前年程度には開けていますし、休館をしてでもしっかり除籍をした方が良いのではとの意見もない訳ではありませんでしたが、週2日の休館だけでも多いと言われていたなかで、それ以上は増やしたくないというのもあります。
会長	祝日開館の一定ルールはあるのですか。
事務局	規則上は、すべて閉館となっていますが、特定の日を特別に開けるという対応をしています。
館長	職員は休日なのですが、最低限の人数が休日返上で勤務をしてくれて、別の日に交代で振り替えて休暇を取ってもらっています。
委員	除籍ですが、除籍は作業的なものではなくて、除籍するかどうかの判断が必要であり時間は

	計り知れないものです。除籍は、古いものから順にはなくて、将来にわたり重要な資料となるであろうものを厳選するものだから大事にしてほしいと思います。
委員	市内各園に配布いただいている本は、除籍された本ですか。
事務局	除籍の本をお分けしています。再利用なので古い本が多いです。
委員	子どもが借りてきた本が、かなり古い本でボロボロであったのでそうかと思いました。
会長	税金で買った本なので大事に使おうというものです。
委員	祝日で開館する日は、何日ぐらいですか。
事務局	祝日開館は、来年度甲西が 5 日間で、石部が 1 日です。
委員	それは図書館の判断でできるのですか。
事務局	両館全員の会議で、個々の祝日について検討し、決めた後必要手続きを経ていきます。
委員	それはどの日のことですか。
事務局	赤い数字の日の 5 月 5 日、8 月 11 日、11 月 3・23 日、2 月 11 日が祝日開館です。
館長	年間の利用状況をみて、利用の多いところは開けようと選んでいるものです。
委員	除籍にかける時間は計れないと言われていましたが、例えば、この 5 日間を除籍に事務局当てることは可能でしょうか。
事務局	祝日は、基本休日出勤扱いとなりますので。
委員	そうでした、ここを休みにすれば閉めてしまうということでした。利用してもらうためには開けるが、除籍のために出勤はするなということですか。
事務局	祝日に出勤するのであれば、開けたいということですが。祝日に出勤したら、どこかで代休を取ることで、平日に交代で代休を取ると、出勤日数が 1 日減り、逆に作業ができなくなるということです。
委員	祝日は、閉めるという選択は無いのですか。利用者は要るでしょうが、労働者は休みがほしいのではないですか。
事務局	お気持ちはありがたくいただきます。
委員	土曜日、日曜日は開いているので、どこまでサービスをするかであり、合意があればわざわざ要らないことをする必要はないと思います。土曜日、日曜日が開いているだけでも凄いことなのに、祝日は休んでも良いという人は多いのではないかと。ここでいう次元ではないのかもわかりませんが。
部長	非常に悩ましいところで、一方では週 2 日の休館は多過ぎて、週 1 日でもいいのではとの意見もあります。ただし、それをしようとするとも今の人員ではローテーションが回らないこととなります。現状では、週 1 日休館は厳しいという状況ですが、野洲市の図書館は週 1 日休館であり、近くであることで比較されたりして休みが多いと言われていました。
会長	野洲市も、遅くまで開けていたものを早く閉めますとなれば、多くの苦情が来たようで、マイナス方向に動いた時の反響はかなり厳しいものがあるようです。
委員	野洲市はどうされましたか。
部長	去年の 4 月から午後 8 時まで開けていたものを、午後 6 時に戻されました。

会長	元に戻ただけなのに、サービス低下と言われたようです。
委員	私らは、職員は休みの日には休んで、英気を養ってほしいと思います。良い仕事をしてもらうためには必要なことだと思います。
委員	いつも遅くまで仕事をされているようで、事務連絡のメール時間でそのことがわかります。
会長	リクエストした本の連絡も今はメールですが、昔は電話で大変だったと思います。
部長	カウンター業務と移動図書館車には必ず職員が必要ですし、極端ですが、マツゾウくんを止めたらその人員は空くことにはなりますが。
会長	けれどもマイナス方向になれば、必ず苦情が出ます。
委員	高齢者の利用を促進するようなサービス充実について検討することが最初に書いてありますので、移動図書館車を止める訳にはいかないです。これからはさらに利用が増えるかも知れません。
部長	図書館運営は、県内の状況を見ましても、やはりまちの状況が違うので、これが一番良いというものではなくて、まちの現状をみて組み立ていかれたそれぞれの図書館のあり方があり、他市と比べてどうかというものではないです。
会長	それはあり得ません。
部長	よく、単純比較をされることがありますが。
委員	地形が違います。
会長	面積や駅に近いとかの条件もあります。
部長	一概には南草津駅前の図書館と比べても違いますし、草津・栗東・守山・野洲の4市の市民はどこでも相互利用ができることもあります。
会長	その現状は、守山だけが大変なようで、他は只乗りしているというようにも聴きますし、うちも野洲とやろうとする話がありましたが、あの時の結論はうちだけが忙しくなってという判断でした。その当時はうちのサービスが圧倒的に高かったことからというものでした。
委員	それについては、菩提寺の人が野洲駅から通勤されていたので、野洲を利用できるようにしてほしいというものでした。
会長	あの時の判断は、向こうから話がありましたが、うちが断ったというものです。時代は変わっていきます。
部長	確かに出来た30年前とはいろんな状況も違います。
館長	今のその話を私たちが聞いているのは、野洲はJR本線に近く便利ですが、野洲がこちらを利用することはなくてメリットがないので断られたようです。
会長	その時は、合併の前で石部がなくて、甲西と野洲という話であったものです。
部長	野洲の館長によると、図書館では講演などは一切していません。
会長	野洲は複合施設というので、玄関の反対側は、社会教育施設であり、うちの2階でやるようなものは隣がされています。
部長	野洲は週1回の休みで利用者も多いようですが、図書館の職員は集中して図書館のことだけをしています。ですから、単純比較して数字だけみると、貸出冊数や休館日が多いまたは少ないとなりますが、やはりそれぞれの図書館の事情が違うということです。

会長	<p>駅に近い場合だったら開館時間を伸ばしたら貸し出しが増えると思いますけど、アンケートをとったら遅い時間になってなくて一部の要望が現実はそのようではないというものです。ただ、駅前にある栗東とかであれば比例しますが、離れた場所であれば遅くまで開館しても違うということのようです。やってみないと分からないというのが結構あります。</p> <p>では、4番目の議題、図書館関連新聞記事についてお願いします。</p>
事務局	<p>【議事4 「図書館関連新聞記事について」】</p> <p>資料No.②参照 図書館関係新聞記事</p> <p>今日、委員から朝日新聞の記事をいただいたので追加させていただきました。</p>
会長	<p>京都新聞の県民一人当たり貸出冊数全国1位と中日新聞の図書貸出数全国1位の記事ですが、まず、滋賀県がいかに凄いか、あまり知られていません。これを冷静にみてもらったら、滋賀県は長らくは不毛の地であったというのが有名な話で、図書館は全国で最下位で、県下には県立と、彦根と水口に在っただけというのが事実、現在では49館在り、先人の方々が頑張ってくれたから今があるのですが、このままのんびりしていたら必ず落ち込みます。全国1位である貸出冊数、県立図書館では司書有資格者比率と、人口一人あたりの蔵書全国2位、市町村の設置率の100%は長年積み重ねて出来上がったものです。昭和55年当時から県が市町村向けに図書館新設に資金補助や司書の配置についてもしていただき、いろんな工夫がされたものが現在あるものです。なかでも、記事中の国松県立図書館長のコメントで、図書館を「自分の考えを持ち、行動できる市民を育てるための教育施設」と位置付ける。図書館は地域の中で集客施設としての一面もあるが、「子どものころから多くの本を読み、得た知識を自分なりの価値判断ができるようになってもらうため、本の貸し出しを増やすのが図書館サービスの基本」と述べられていて、このことは、我々がしっかりと考えておかないといけないことだと思います。今は良いけれども、さらに全国的に図書館の位置づけも厳しく、財政的にも厳しくなっています。それから2ページですが、貸出猶予についてですが、昨年10月の図書館大会で新潮社の社長が悪気があっていったのではありませんが、新刊書は半年か1年図書館で貸し出すのは止めることも考えてみませんかという話が出て、それがまるで決まったかのようにマスコミから出てしまい、そのことについての問い合わせがあるようですが、それに関して浦安市の元館長をしておられた立命館大学の常世田教授は、新潮社の主張は根拠がないと調べられた結果が載っています。注目してほしいのは、市民の利用率が、塩尻市が17%、堺市が11%と大半が利用してなくて、湖南省では25%の利用は凄く高い数字であり、先ほど部長から心強い言葉をいただきましたが、滋賀県下では軒並み高い数字が現状であり、その現状を皆さんに知っていただきたいために、この記事を選んでいただきました。後、3ページの永利小郡市立図書館館長の記事、ここは一旦市の市公社で指定管理を行ったが、再び市の直営に戻したところですが、指定管理はいろんな側面があるところですが、今のところ湖南省では指定管理のことはあまり考えなくても良くなった訳ですが、世の中の指定管理を知っていただくためにこの記事をお願いしました。</p>
委員	<p>今日、持参し配ってもらったこの記事(朝日新聞)の話は、会長の話と引き続く話ですが、日本書籍出版協会が何処の公共図書館もがコスト削減という潮流があり、人員削減につながり、それが民間にというもので、その流れができてきているが、国に資料購入費の増額を要請する</p>

	動きであることを発表した記事で関心を持ったものです。ここでは、図書館は増えているが資料購入費が年々減少しているが、「図書館に必要とされるのは多様な資料群」だと指摘し、「図書館と出版会は相互補完的な表裏一体の関係」としたうえで、図書館と足並みをそろえて「図書館と連携を深め、読書推進を進めることがより重要だ」としているものです。それと、先ほど会長が、永利小郡市立図書館長の図書館の原点の話をされましたが、改めて、図書館の担う責務について再確認するわけですが、学校支援と社会教育が大きなひとつであることで、子どもたちに読書の習慣をつけてもらい、社会人には学び直しの場とするのが公共図書館の使命であるということが書いています。
会長	では、5番目の意見交換ですが、先に館長から、来年度の予定があれば確定でなくてもいいのでお願いします。
館長	現在、一部予算も伴う今3月議会に提案中の内容2点について説明をします。まず、一つ目は執務時間内だけですが各まちづくりセンターでの図書返却サービスを実施します。三雲、柑子袋、石部南、岩根、菩提寺、下田、サンヒルズ甲西の7か所とします。窓口カウンターで返却袋に封をして返す方法となりますが、実施は5月の連休明けあたりから始めていく予定です。
会長	まちづくりセンター全てですか。
館長	中央は甲西図書館に近いのと、石部は図書館の2階なので取り扱いはせず、その他はすべてです。もう1点は、甲西図書館の休憩コーナーの充実で、現在の休憩コーナーの長椅子であるものを、テーブルを用意して椅子を購入し、ドリップ式のコーヒー自動販売機を設置の予定です。このリニューアルは、5月の蔵書点検期間後にサービス開始の予定です。この二つが、小さいですが、図書館の政策的な新たな事業として行うものです。なお、もう1点は、委員から前回ご提案いただいたものですが、2月からまちづくりセンターにも図書館だよりを配置することとしました。その他に平成28年度雑誌スポンサーの募集PRですが、経済三団体である商工会、工業会、湖南工業団地協会の役員会にて制度の説明をしたことを報告させていただきます。
会長	意見交換に入る前に、平成28年度第1回目の日程をいつごろ予定されているのか教えてください。
事務局	5月か6月を予定しており、4月に入ってから連絡させていただきます。
会長	その時は27年度の実績数値の報告がメインとなりますが、なるべくコメントも入れていただくようお願いします。
委員	新聞記事の1頁目で司書比率全国平均52%とありますが、滋賀県平均81.5%で、貸出冊数など見事に比例しています。湖南市では、16人中10人が資格をお持ちで60%位、ピッタリはまり、こうした傾向がみられるとバックアップできる資料となりますね、そうするとこの表に合う蔵書冊数や資料購入費を数字に出してみても比較するのも一つの方法ではないですか。それと疑問ですが、資料購入費とは何を指しますか。
事務局	図書購入費の場合は図書だけですが、資料購入費は図書と、雑誌、視聴覚資料、新聞、官報どこまで入れるかは不明です。
委員	この表においてはすべて一人あたりですか。

事務局	そうです。
委員	貸出冊数が多くなると司書が多く必要だし、多くするために司書は多く必要だし、資料購入費も必要だということのようです。
委員	供給が需要を呼ぶという前川先生の有名な言葉があります。
会長	他にありませんか。
委員	先月に初めて県立図書館の協議会の傍聴に行ってきたことを報告します。県立図書館では、平成27年1月に利用者アンケートを執られ、その結果報告の説明がありました。1日で約620の有効回答があった中で、レファレンスについて、利用したことがありますかの質問で15.1%が利用と、利用したことがないが83.6%の回答でした。この場の委員からもレファレンスのことを知らない人があまりにも多すぎる話が何度も出ていますが、県立図書館の利用者は熟した使い方をしている人が多いと思っていましたが、少ない現状でした。なぜ、利用しないのかの項目では、自分がネットで調べる、これは自分でと鑑みてもわかる理由ですが、59.5%で、ところがサービスを知らないというのが39.2%と意外でした。図書館として、こちらの図書館ではサービスを知らないとの明確な数字は出てないと思いますが、おそらく同じようであるかもしれません。図書館利用者のレファレンスサービスを知っていただくことが大事であり、それが図書館の魅力と利用者増にもつながるので、常に自身への問いかけとして溜めておかないといけないと思いました。その一環として最近大きな「？」マークをカウンターに掲示され、気楽に尋ねやすい雰囲気を作っていただいているのでアイデアとして大変有効だと思います。なぜ、図書館としてそうしたことを考えなくてはいけないかをいうのは、近年予算削減ということで資料費や人員の削減が行われている中で、レファレンスを利用しないのであれば何名か置いておけば良いのではという感じの言説が最近見受けられるようになっているからです。別に重要視しないというか、全員専門司書でなくても良いのではないかとすることに流されやすいことになりかねません。これまでは、図書館として、とりわけカウンター業務が最も市民利用者に直結する場として、司書の配置に手を抜かないという理念でずっと当図書館もやってきた訳ですが、そのことを私たちも再認識して、安易に人件費等の削減の潮流に乗らないように、図書館の基本的な理念や方針をわかりやすく市民に示し続ける必要があると思って、傍聴から帰ってきました。
委員	1月16日の新聞記事に載ってあったピアザ淡海であった朝読書の記事ですがありましたか。
事務局	記憶しておりませんが。
委員	新聞に載っていて、ここへ来た時もパンフレットもいただいたのですが、湖南省の石部中学校が実践報告されたもので、参加してきました。
委員	学校支援事業です。
委員	理事長の基調講演も良かったです。
委員	レファレンスは基本的に図書館の中にこんな経験をしたのですが、ある作家の短編を読みたいので尋ねたら、無いという返事でしたが、全集とかをいろいろ見て探したのですが、図書館では全集の中を検索する機能は無いのですか。

事務局	有ります。今はあるのですが、随分以前に購入したものについてはデータ自体が入っていないので閲覧できません。うちのシステムでできなくても国会図書館のシステムかよその図書館のホームページで検索できますので、うちに蔵書が無くてもどの本という特定は可能だと思います。
委員	私が言いたいのは、探すことについて、どういう方法で調べることができるかを個人の技量ではなくて、技術として新人でもできるものが必要です。
事務局	そういうものはカウンターと一緒に入っているときに、教えていっています。
委員	そういったものを積み重ねて行けば、年に1回しか借りられない本の目次でも検索できることになり、直ぐに配置された人でもキーボードさえ操作できれば検索できるわけで、そういうシステム作りは必要です。その人の能力の過大に関わるのではなく、頑張らなくてもできるシステムが一番望ましいです。
事務局	データの整備やポイントを教えればできるというノウハウは徐々にしていっていますし、来た人には随時したいと思っています。
会長	他に無いようでしたら、以上で図書館協議会を閉じたいと思います。
館長	では、これで第4回、今年度の図書館協議会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

[閉会] (15時40分)